

みなとオアシス富山の周辺情報

みなとオアシス富山は、江戸から明治にかけて北前船で栄えた港町「岩瀬地区」をはじめ、旧船だまりを整備してできた都心の水辺空間「富岩運河環水公園」まで、観光名所が広がっている。

岩瀬と環水公園をつなぐクルーズ船「富岩水上ライン」で巡る市内観光も人気があり、富岩運河中流部の「中島閘門」で体験できる水のエレベーターはクルーズの魅力を高めている。



①岩瀬カナル会館【代表施設】



江戸から明治にかけて北前船で栄えた歴史ある港町「岩瀬地区」の観光拠点。物産館や飲食店のほか、各種会合やセミナーに適したホールや会議室がある。

施設は岩瀬運河に面し、クルーズ船「富岩水上ライン」の発着場があるほか、岩瀬の散策に便利なレンタサイクルも行っている。



②北前船廻船問屋森家【構成施設】

国指定重要文化財。北前船主・廻船問屋の邸宅であり、1878年に建築された。全国各地の材料を使った贅沢な造りであり、商談に使われたオイの間、玄関から船着き場まで通じるトオリニワ（土間通路）、土蔵のこて絵など見所が多数ある。ガイドによる説明が受けられる。



③旧馬場家住宅【構成施設】

国登録有形文化財。北陸の「五大北前船主」であった北前船主・廻船問屋「馬場家」の住宅である。東岩瀬では最大規模を誇る町家であり、加賀前田家の参勤交代に使われた旧北国街道沿いにあり、西門は昭和初期まで神通川に面していた。長さ30mのトオリニワ（土間通路）、33畳あるオイ（広間）などが見所である。



④富山港展望台【構成施設】

富山港のシンボリック施設。北前船の時代に燈台の役目を果たした「常夜灯」をイメージして建設され、高さ約20mの展望室から岩瀬の街並みや富山湾が一望できる。



⑤岩瀬運河【構成施設】

昭和15年開削。現在は、海洋スポーツ・レクリエーション基地として整備されている。プレジャーボートの係留施設、岩瀬カナル会館などがある。



⑥岩瀬諏訪神社 岩瀬曳山車祭

岩瀬曳山車祭は、岩瀬諏訪神社の春季例大祭として、毎年5月17、18日に開かれている。昼間は曳山車の曳き回しが、夜は曳山車同士を激しくぶつけ合う曳き合いが行われる。曳き合いの激しさから「けんか山車」の異名でも親しまれる。



みなとオアシス富山の周辺情報

⑦富岩運河環水公園【構成施設】

富山駅北にある富岩運河の旧船だまりを都市の水辺空間として整備した市民の憩いの場である。

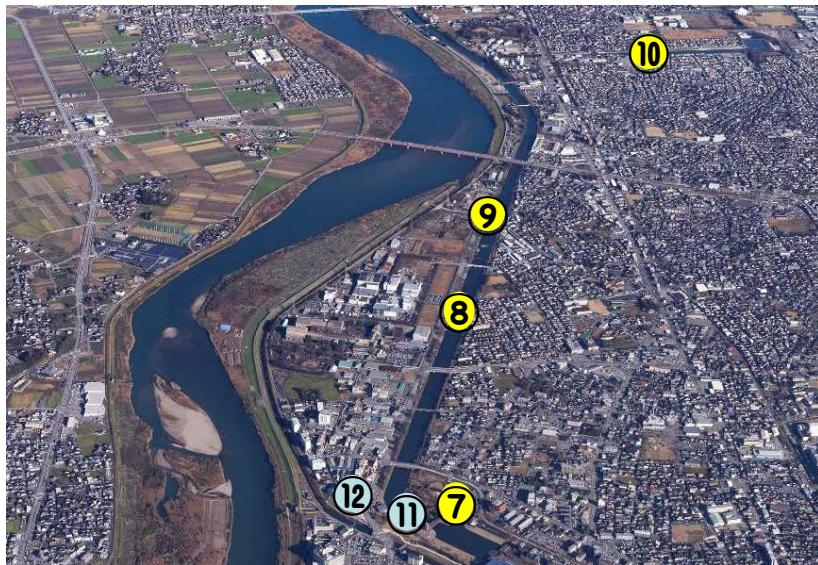
水辺を囲むように芝生が広がり、遊歩道が整備されている。滝が流れる「泉と滝の広場」や野外劇場、野鳥の観察舎などがあり、公園のシンボル「天門橋」の展望塔からは園内や立山連峰を一望できる。

富岩水上ラインが乗船場から運航するほか、夜は公園全体が幻想的にライトアップされて美しい。一年を通して多彩なイベントも開かれ、人気を集めている。



⑧富岩運河【構成施設】

富山港と富山駅北を結ぶ全長5.1kmの水運路。昭和初期の都市計画により昭和10年に完成し、運河沿岸には一大工業地帯が形成された。高度経済成長期に物流の変化などにより衰退したが、昭和60年以降に環水公園の整備や遊歩道の環境整備、閘門の復元工事が行われ、都市の親水空間として再生した。



⑨中島閘門【構成施設】

国指定重要文化財。昭和初期の都市計画で富岩運河の開削に合わせて運河中流部に設置された、上流と下流の水位差約2.5mを扉の開閉によって調整するパナマ運河式の閘門である。

現在は富岩水上ラインが通航し、閘門は水のエレベーターと呼ばれて注目されている。閘門とともに国の重要文化財に指定された操作室も一般公開している。



⑩住友運河【構成施設】

昭和15年開削。戦後、周辺は工業地帯として発展し、運河は貯木場として利用された。現在は周辺に住宅が建ち並び、遊歩道が整備されている。



⑪富岩水上ライン



富岩運河環水公園と岩瀬を結ぶクルーズ船。環水公園～岩瀬、環水公園～中島閘門、環水公園周遊便の3コースがある。岩瀬便には路面電車の片道乗車券が付き、船と電車で市内観光できる。また中島閘門における水のエレベーターの体験が魅力。

船にはスタイリッシュなデザインのソーラー船や小型の電気ボートを使用。期間限定でナイトクルージングも運航する。

⑫富山県美術館



富岩運河環水公園内にあり、美術館からは環水公園や立山連峰を一望できる。

「アートとデザインをつなぐ」をコンセプトに企画展をはじめ、20世紀美術の巨匠らの作品、ポスター、椅子などのコレクションを展示する。

屋上にはオノマトペ（擬音語、擬態語）からデザインされた五感で楽しめる遊具があり、親子連れに人気がある。

